令和 6 年 2 月 9 日（金）（R5 第 46 号）

昨日の学習参観・学級懇談会へのご参加、ありがとうございました。

第 46 号は節分の話の続きです。

3 年生が「節分」についていろいろ教えてくれました。

「豆まきをした」のは、約 7 割でした。

そのまま大豆をまく家と包装されている大豆をまく家は五分五分でした。後の掃除が楽だとか、まいた後食べることができるという理由で包装されている大豆をまく家が増えているのかもしれませんね。ちなみに鬼がご家庭に登場したのはそのうちの 1/3 程度でした。お父さん？お母さん？お疲れ様でした。

「恵方巻を食べた」のも、約 7 割でした。必ずしも、豆まきをした家と重なっているわけではありませんでした。

寒いからなのか。防音が効いているのか。近所迷惑を気にしたのか。恥ずかしがり屋が増えたのか。その理由は定かではありませんが、私が住む町では「鬼は外。福は内」の大きな声は聞こえてきませんでした。昭和人（？）の私は、少し寂しい気持ちです。

さて、第 44 号の問題の回答です。

Q1：立春・立夏・立秋・立冬の前日はすべて「節分」となるが、立春の前の日だけが「節分」として残ったのはなぜか。

A1：旧暦では２月が新年だったからという説が有力です。つまり、立春の前日は、大晦日（現代の 12 月 31 日）にあたり、悪いことを追い払い、新しい気持ちで新年を迎えようとしたからです。その日が「節分」として残りました。

Q2：なぜ豆をまくのか。

A2：いろいろな説があります。

○「毘沙門天が鬼の目に豆を投げて退治したから」という伝説。

○初めは米をまいていたが、米よりも栄養があり、大粒なまめに変わった説。

○大豆にはたくさんの栄養があり、鬼を追い出すパワーがあるから説。

この 3 つの説よりも私が気に入っているのは、「豆」＝「魔滅」。つまり「魔（ま）」を「滅（めっ）する」という説です。なんだか「鬼滅」みたいですね。

Q3：なぜ炒ったまめなのか。

A3：火を通すと鬼を倒すパワーが増す説と火を通した豆は芽が出ない。つまり悪いことが起きない説があります。

Q4：いつごろから始まった行事なのか。

A4：似ているような行事は平安時代からあったようですが、今の形になったのは室町時代という説が有力です。場所（時代）によっては、お米をまくこともあったとか。

昔は季節の変わり目に鬼（よくないことが起こる）が出ると信じられていたので、「魔滅（まめ）」を投げて追い払ったようです。インフルエンザ鬼やコロナ鬼、地震鬼を追い払いたいですね。